

1 事業の目的

環境省の調査によると、海洋ごみの8割は陸域で発生したごみが河川等を通じて海に流出したものであるとの報告があることから、市内の準用河川にオイルフェンスを設置して、流れるごみを回収してその実態を把握し、陸域から海洋への効果的なごみの流出防止に資することを目的とする。また、小学生を対象とした特別授業を実施し、海洋ごみ問題の普及啓発を図る。

2 取組概要

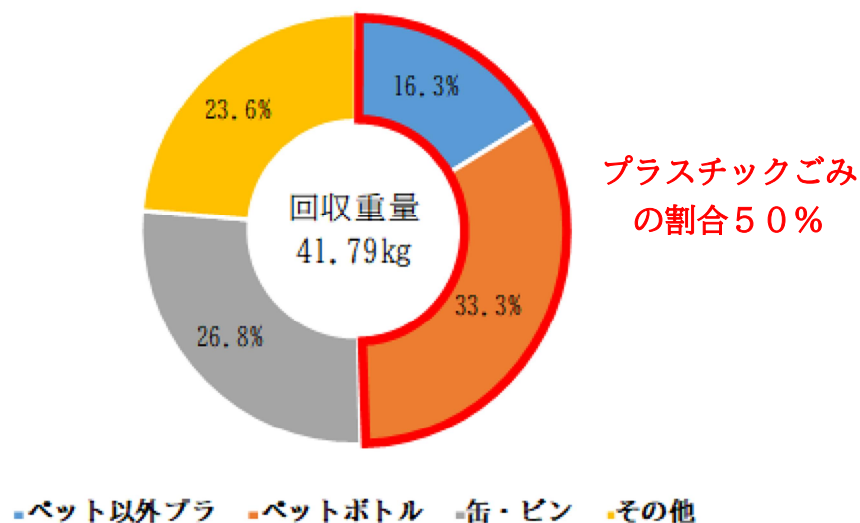
<オイルフェンスの設置>

がめ川にオイルフェンスを令和7年6月5日から8月5日の間の計2カ月間設置した。ごみの回収については毎週火曜日の週1回を基本とし、荒天等による増水が予想された時にも事前のごみの回収を行った。

回収の結果、重量の合計は、「ペットボトル以外のプラスチック」が6.82kg、「ペットボトル」が13.92kg、「缶・ビン」は11.2kg、「その他」は9.85kgとなっている。（落ち葉等は42.37kg）

重量の割合（落ち葉等を除く）については、「ペットボトル」が33.3%、「ペットボトル以外のプラスチック」が16.3%、「缶・ビン」は26.8%、「その他」は23.6%となっている。

ごみの組成分析結果一覧（落ち葉等を除く）



今回の調査では、ペットボトル、空き缶の回収が目立った。直接河川へ捨てられたもの以外では、路上にポイ捨てされ雨風により河川へ流入したものや、コンビニエンスストア等のごみ箱や地域のごみ集積所から管理不足により漏れ出たものが河川に流入したものが考えられる。一部のごみは、特定の人物が投棄したものやバーベキュー等のイベントのごみを投棄したものと推察される。



週一回で回収されたごみ



プラスチック容器



同じ種類の空き缶・空きビン



落ちてしまったと思われるボール



サンダル



たばこの吸い殻

<小学生への特別授業>

環境教育の一環として、市では小学4～6年生を対象に「海洋ごみに関する小学生への特別授業」を行っている。令和7年度は5校（神保小学校、山田小学校、岩瀬小学校、草島小学校、杉原小学校）で実施し計130人の児童が参加した。

①バスツアー（神保小学校、山田小学校、岩瀬小学校、草島小学校、杉原小学校）

まず、がめ川に設置してあるオイルフェンスを見学し、街中を流れる河川にごみが流れている現状を学んだ。その後、講義を受け、海洋ごみについての知識を深めた。ツアー最後には、岩瀬浜でのごみ拾いやマイクロプラスチック探しを行い、漂着するごみの実情を学んだ。



オイルフェンス見学



岩瀬浜でマイクロプラスチックを探す様子

②ごみマップ作製（神保小学校、山田小学校、草島小学校、杉原小学校）

海洋ごみにつながるごみが自分たちの校区に落ちていないかを調査した。自分たちの通学路に、実はごみが多く落ちていることを学んだ。



校区のごみを調査



調査で回収されたごみ



回収したごみを分類